



発行/市川市市川駅南口図書館(指定管理会社・株ヴィアックス) 〒272-0033 市川市市川南1-10-1 I-linkタウンいちかわザタワーズウエスト3階

深まる秋をクラシックと♪



『楽隊のうさぎ』中沢 けい

(スタッフ・M)

音楽を読む

中学生になった男の子が吹奏楽部に入部して、全国大会まで進むおはなし。初心者の彼の生活に音楽が浸透していく一方で、思春期らしい葛藤や不安も描かれている。このバランスが絶妙である。

最終章で主人公達が演奏する「シバの女王ベルキス」は、「戦いの踊り」「夜明けのベルキスの踊り」「饗宴の踊り」の3曲を組み合わせている。戦いの熱気や高揚感、この舞台に立つまでの主人公の練習の日々と重なる。演奏前の緊迫感や音を出すときのプレッシャー。演奏中の盛り上がり。まさに青春で構成した演奏を読んでいるようである。



『楽隊のうさぎ』中沢 けい

出版社:新潮社
請求記号: B913.6/4
駅南図書館所蔵あり

ナクソスに
ログインして
アクセス!



「シバの女王ベルキス」はレスピーギ作曲のバレエ組曲ですが、バレエとして上演されたことは少なく、日本では吹奏楽用に編曲されたものが演奏の機会が多く人気があるようです。ナクソスで検索して管弦楽版と聴き比べてみるのもよさそうですね。

クラシックにふれよう

アレクサンドル・グラズノフ「四季」より「秋」

(スタッフ・N)



今回は、バレエ音楽として人気の高いグラズノフの「四季」より「秋」をご紹介します。「秋のクラシック」といえば、哀愁の漂うしっとりとした曲を思い浮かべる方が多いかもしれませんが、グラズノフの「秋」は、喜びに満ち溢れた豊穡の秋を表現しています。

秋晴れの空の下、バッカナール(酒と収穫の神バッカスを祀る祝祭)を楽しむ人々が目に浮かぶような心躍る旋律で幕を開け、途中にゆったりとしたテンポの美しい小曲「小アダージョ」「バリエーション」を挟みます。そして、終盤からはバッカナールを回顧するように、再び賑やかさを取り戻します。グラズノフの「四季」は「冬」から始まり、「秋」はフィナーレにあたるため、曲は黄金色に輝く秋を称えるように盛り上がり、大団円を迎えるのです。

センチメンタルに味わう秋もいいものですが、今年は長すぎた猛暑の終わりを祝う気持ちでグラズノフの「秋」を楽しんでみませんか。

ナクソスにログインして
アクセス!



「冬」から聴き始めてクライマックスの「秋」までをじっくりと四季の移ろいを感じながら聴くのもいいですし、また「秋」を聴き比べてみるのもいいかもしれませんね。是非ナクソスで検索して聴いてみてくださいね。



思春期デンデケ

(スタッフ・H)

音楽とわたし

思春期のころ、私はギターを弾くことに憧れていた。父に相談すると、所持していたギターを1本渡してくれ、「演奏は音で覚えるものだ」と放置された。指を引きつらせながら弦を押さえ、テレビの中のギタリストを必死に目で追う日々を過ごす。そんなある日、我が子可愛さを思い出したのか、父がギターを教えてくれた。これは夢かと思った。夢だった。目覚めた私は、無言で父にギターを突き返したのだった。

ギターは無くなったが、音楽は私に染み渡り、音が無いと生活を送れない体になってしまった。読書しかり、映画しかり、父の趣味は形を変えて私に受け継がれている。ちなみに、件のギターは現在義兄がかき鳴らしているらしい。



編集担当の ひとこと

10月に入ってもなお夏を記録するなど、年々夏の厳しさが増しているようです。ようやく秋を感じられるようになりました。秋を味わいながら来る冬に備えつつクラシック音楽と共に過ごしませんか。ご紹介している以外にもナクソスのおすすめのプレイリストなどからお気に入りの1曲をみつけてみてくださいね。